

地域医療連携室 **だより**

Office of Community

よりよい地域医療連携をめざして

特集

在宅医療支援センター のご案内

- 病院長挨拶 … 3
- 教授就任挨拶 … 4
- 第4回連携登録医のつどい 開催報告 … 6
- 診療科紹介 … 8
- 在宅医療支援センターのご案内 … 11
- 第18回地域医療連携懇話会 開催報告 … 12
- 地域医療連携室からのお知らせ … 14

理念

患者と心が通い合う人間味あふれる医療人を育成し、地域との緊密な連携のもとで奈良県民を守る最終ディフェンスラインとして、安全で安心できる最善の医療を提供します。

方針

1 奈良県民を守る「最終ディフェンスライン」の実践

奈良県内唯一の特定機能病院として高度医療・先端医療を推進します。
また高度救命救急センターに加え、ER救急の整備等により救急医療体制を強化するとともに、奈良県基幹災害拠点病院として、奈良県民を守り地域の安心の確保に貢献します。

2 奈良県内基幹病院としての機能の充実

5疾病（がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病・精神疾患）をはじめとするあらゆる疾患に着実に対応するとともに、患者安全の取組を推進し、奈良県内基幹病院としての役割を果たしていきます。

3 地域医療機関との機能分担、緊密連携の推進

地域医療機関との適切な機能分担と緊密な連携を推進し、地域医療を支えます。

4 各領域の担い手となる医療人の育成

附属病院における卒後教育を通じて、超高齢社会に対応する地域包括ケアシステムをはじめ各領域の担い手となる患者と心が通い合う医療人を育成し、地域医療の向上に貢献します。

行動指針

- 病状や治療方針を分かりやすく説明し、安全で質の高い医療を提供します。
- 高度で先進的な医療を提供します。
- 医の倫理にしたがい、患者さんの意思と権利を尊重し、心の通い合う医療を提供します。
- 県における基幹病院として、地域の医療機関との連携を図り地域医療に貢献します。
- 臨床教育を充実し、人間味豊かで県民から信頼される優秀な医療人を育成します。

地域医療連携室だよりによせて

奈良県立医科大学附属病院

院長 吉川 公彦



奈良県立医科大学附属病院 院長の吉川公彦です。

日頃は当院地域医療連携室を介した病病・病診連携にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

当院は県内唯一の特定機能病院であり、高度、先進医療を担う基幹病院として診療・教育・研究の充実を図っています。特に高精度放射線治療やIVR（画像下治療）、ロボット手術、精密治療としての薬物療法を含めて、質の高いがんゲノム医療を実施する体制を推進するとともに、救急疾患、脳卒中、心筋梗塞、大動脈解離・急性腹症・精神疾患をはじめとするあらゆる疾患に高度で先進的な医療を提供できる体制づくりを強化しています。

昨今、慢性的な医療従事者の不足、地域偏在、高齢化社会と医療費の高騰を受けて、地域医療構想の実現に向けて、医療機関の機能分担が求められており、当院は地域医療拠点病院として、多くの紹介患者さんを受け入れ、急性期治療後は紹介元の医療機関あるいは別の機能を有する病院や診療所への逆紹介を行い、医療機関の機能分化と地域完結型医療の推進に努めています。

さて、今般の新型コロナウイルス感染症に対応するため、令和2年4月より奈良県のコロナ重点医療機関として認定され、令和5年2月現在、コロナ専用病床29床（うち重症6床）を運用していますが、院内感染や濃厚接触者の発生による医療従事者の感染も考慮し、病床稼働率を80%、手術枠を70%に制限しています。

初診予約や治療に関してご不便をおかけしているかと思いますが、何卒、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

今後も当院地域医療連携室では紹介患者さんの受診予約業務、迅速・詳細な返書作成、かかりつけ医への逆紹介の推進や連携登録医制度の充実、患者さんの診療を計画的に進めるための「地域連携パス」の運用、「地域医療連携懇話会」をはじめとする医療連携各種会議の円滑な運営に努めてまいりますので、ご理解とご支援、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



教授就任挨拶

胸部・心臓血管外科

教授 細野 光治

2022年9月1日付で、胸部・心臓血管外科学講座教授を拝命いたしました細野光治と申します。私自身は大阪市立大学の出身ですが、母親が御所の出身で、叔父や叔母は現在も奈良県在住ですので少なからずご縁を感じております。

胸部・心臓血管外科は1981年10月に北村惣一郎初代教授が開設され、谷口繁樹前教授が受け継がれ発展してまいりました。

成人心臓外科では、虚血性心疾患に対する手術、弁膜症手術を多数行っています。弁膜症では強く変性した症例では弁置換術を施行しますが、大動脈弁閉鎖不全症や僧帽弁閉鎖不全症に対しては弁形成を積極的に行っています。また小さい創部で行う胸腔鏡下弁膜症手術や、循環器内科と協力して経カテーテル弁置換術などの低侵襲手術も行っています。循環器内科と連携し、ハートチームとして循環器診療にあたっています。

血管外科では、大動脈瘤や急性大動脈解離に対する大血管手術から、閉塞性動脈硬化症・静脈瘤まで幅広く治療にあたっています。外科的手術のみならずカテーテル治療が必要な場合は放射線科IVRセンターと連携して、ハイブリッド手術も積極的に行っています。

先天性心疾患の手術も年間約50例行っており、手術成績も良好です。奈良県下で小児循環器手術が可能であるのは当院のみであり、最終ディフェンスラインとして可能な限り対応させて頂いています。

呼吸器外科では、肺癌、気腫性肺疾患、縦隔腫瘍など呼吸器疾患全般についての外科診療を行っています。胸腔鏡下低侵襲手術を積極的に行い、疼痛軽減や早期離床・早期退院が可能となっています。また、残存肺機能を考慮した縮小手術も適応があれば行っています。進行癌や縦隔腫瘍に対しては、呼吸器内科や放射線科とチームを形成し、集学的治療を行っています。

このように、当講座では多様な手術法や治療選択肢をもち、さらには他科との連携を図ることにより、最適な時期に最適な治療を行っていくことで地域医療に貢献していく所存です。よろしくお願い致します。



血液内科学講座開講と 教授就任の挨拶

血液内科

教授 松本 雅則

2022年11月1日ようやく奈良県立医科大学附属病院にも独立した血液内科ができました。私はその初代教授に12月1日に就任しました松本雅則と申します。私は高取町生まれで、畝傍高校から自治医科大学に進学し、十津川村の診療所で4年余り地域医療を経験しました。

私が旧第二内科（成田亘啓教授）に1991年に入局しました時には、血液グループは私以外に3名（責任者は現御所市医師会長の西川潔先生）で、他の内科でも血液疾患を診療されていました。その後、旧第二内科が主として血液疾患を担当するようになりました。最近では呼吸器・アレルギー・血液内科と標榜しておりましたが、この度独立した講座・診療科となっています。

血液内科は、赤血球系疾患、白血球系疾患、血栓止血系疾患の3つに分類されますが、最近は急性白血病や悪性リンパ腫などの白血球系の悪性疾患患者が病棟のほとんどを占めます。これらの疾患は、治療に長期の入院が必要であり、また早急に入院加療が必要となります。しかし、当院ではベッド数、マンパワーの問題があり、現在まで皆様の要望にお応えできなかったこともあったと思います。

私の当面の目標は、当科のメンバーを増やし、皆様からの要望にお応えできるようになることです。特に奈良県内の患者さんは奈良県内で治療できるように、奈良医大の状況を改善するとともに、病院ネットワークを構築することが急務と考えています。さらに、血液悪性疾患の治療は、この20年で大きく進歩しました。分子標的療法や造血幹細胞移植、CAR-Tなどの細胞治療によって、予後が大きく改善しましたが、より高度の知識が必要となったため、大学病院の役割がさらに増していると感じます。

また、医育機関として赤血球系疾患や私の専門である血栓止血系疾患の医療にも積極的に取り組んで、バランスの良い血液内科医を育てていきたいと思います。誕生したばかりの弱小講座ですが、“奈良県民を守る最終ディフェンスライン”を実践できるように努力いたしますので、ご指導、ご支援をよろしくお願い致します。

第4回連携登録医のつどい 開催報告

開催概要

開催日時: 2022年11月10日(木)14:00~15:30

開催場所: ミグランス橿原市役所分庁舎
4F コンベンションルーム

第一部

座長 奈良医大附属病院 消化器・代謝内科教授
地域医療連携室長 吉治 仁志

講演Ⅰ 「より良い関節リウマチ診療のための
医療連携への取り組み」

奈良医大附属病院 整形外科 学内講師 原 良太

講演Ⅱ 「在宅医療支援センターについて」

奈良医大附属病院 在宅医療支援センター
特任助教 西村 信城

講演Ⅲ 「開業医との病診連携
(助かったこと、困ったこと、これからのこと)」

御所市 勝山内科医院 院長 勝山 慶之

第二部 情報交換会

第4回「連携登録医のつどい」を 開催いたしました

2022年11月10日に3年ぶりとなる「第4回連携登録医のつどい」を開催いたしました。

「連携登録医のつどい」は、登録医の皆様と当院とのより緊密な医療連携を図ることで、患者さんに安心を提供できる地域完結型医療を構築することを目的としています。

講演Ⅰでは当院整形外科の原先生から関節リウマチ診療と医療連携の取り組みについて、また講演Ⅱでは当院在宅医療支援センターの西村先生から今年度より始動いたしました在宅医療支援センターについて講演がありました。

講演Ⅲでは、勝山内科医院の勝山先生より、病診連携について連携登録医の視点からご講演いただきました。

講演会終了後の情報交換会では診療科紹介として当院の医師からそれぞれの診療科について概要の説明がありました。

今後も地域医療連携室では登録医の先生方と当院医師との顔の見える繋がり構築に努めてまいります。

当日は感染症対策にご協力いただくなか、院内・院外合わせて30名の皆様にご参加いただき、盛況のうちに幕を閉じることができました。



◀当日の様子

当日の講演者



奈良県立医科大学附属病院
院長 吉川 公彦



奈良県立医科大学附属病院
地域医療連携室 室長
消化器・代謝内科
教授 吉治 仁志



奈良県立医科大学附属病院
整形外科
学内講師 原 良太



奈良県立医科大学附属病院
在宅医療支援センター
特任助教 西村 信城



御所市 勝山内科医院
院長 勝山 慶之

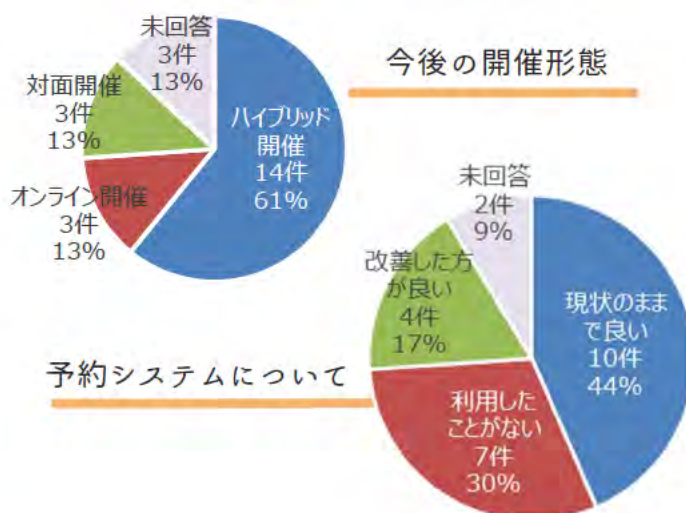
参加者へのアンケートでは、今後の開催形態についてハイブリッド開催を希望する声が多く聞かれました。

また、当室の予約システムについて「利用したことがない」のご意見の中から「タイムリーな仕組みづくりを」との声もいただきました。今後の課題として取り組んでまいります。

その他詳細は地域医療連携室ホームページの「連携登録医について」ページ内「連携登録医のつどい」ページの開催報告に掲載していますのでご参照ください。

お忙しい中ご参加くださいました皆様、ならびに開催にご協力をいただきました皆様には重ねて御礼申し上げます。

アンケート集計概要



連携登録医の登録はお済みですか？

「連携登録医制度」は、地域の医療機関と当院が相互に協力して、患者のニーズに応えた一貫性のある医療を提供するため、より緊密な医療連携を図る体制を整備することを目的としています。

患者の紹介・逆紹介などで当院と連携を図り協力体制をとっていただける地域の医師・歯科医師の先生方を「連携登録医」としています。

連携登録医にご登録いただくと・・・

- ・連携登録医と当院医師との交流の場として、「連携登録医のつどい」を開催しています。地域連携、病診連携、日常の診療に関する情報交換の機会としてご参加いただけます。
- ・ご紹介いただいた患者さんのカルテ閲覧や入院中の患者面談等、患者さんの診療情報を共有することができます
- ・定期的なメールマガジン発信により奈良医大の最新情報や各科、各教室の学術集会の参加案内などをいち早くお届けします
- ・登録医紹介患者さんにつき専用電話による直接予約が利用できます
- ・患者さんから日常のかかりつけ医について相談があった際は、連携登録医医療機関を逆紹介機関として患者さんに案内、紹介いたします

この機会にぜひご登録をお願いいたします！

(登録医申請方法は
こちらから👉👉)



診療科紹介



糖尿病・内分泌内科

2022年より糖尿病センターから発展的に設立された糖尿病・内分泌内科では、内分泌代謝疾患、糖尿病患者さんを広く受け入れています。

糖尿病については、1型糖尿病や妊娠糖尿病、さらにさまざまな合併症を持った患者さん、また内分泌代謝疾患については、電解質異常、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、骨粗鬆症といったコモンディジーズから下垂体疾患、副腎疾患、性腺疾患など比較的稀な疾患の患者さん、さらに診断治療に難渋する病態やいわゆる難病の特定疾病の患者さんなどを受け入れています。

また急性の病態としては糖尿病ケトアシドーシス、非ケトン性高浸透圧性昏睡、低Na血症、高Ca血症、甲状腺クリーゼ、副腎クリーゼなどに対しても奈良県の最後の砦として対応しております。

一方で治療方針が確定し落ち着いた患者さんについては紹介元の先生方にかかりつけ医として、病診連携をお願いしております。

奈良県では糖尿病専門医、内分泌代謝科専門医数は全国に比べても極めて少ない状況にありますので、地域のニーズにお応えするためにも明日の診療を担う若手専門医の育成にも力を入れております。また啓発活動として各種講演会、研究会なども企画して当科のホームページ、FBでも随時ご案内しておりますし、多くはWeb参加が可能ですので、どうぞお気軽にご参加ください。

当科に患者さんをご紹介いただく際は、診療情報提供書に

- ・血液データ
- ・身長・体重・BMI

記載のご協力をお願い致します





消化器・総合外科

当科は肝胆膵・食道・胃・大腸などの消化器外科の他、乳腺外科・小児外科を専門としており、幅広い領域、疾患を担当しております。高い専門性を維持しながらも、同時に横断的に柔軟な対応ができる体制を構築しており、教室員一同、患者さんに最先端および最善の治療を提供するための不断の努力を続けています。

特に最近の癌治療の進歩は目覚ましく、膵癌や食道癌などの難治癌であっても、診断時には切除不能であった腫瘍が化学療法等で大幅に縮小し、根治切除が可能となることも少なくありません。常に手術に最新の化学療法、免疫療法等を含めた集学的治療を実践し、根治を目指しつつ、予後およびQOLの向上に努めています。

また近年、外科治療における低侵襲手術の導入は急速に進んでいます。教室では内視鏡下手術にかねてより積極的に取り組んできましたが、最近はロボット支援下手術が主流となりつつあります。保険診療の改正で私たちが対象とする手術の多くにロボット支援下手術の適応が広がりました。

当院では最新型ロボットシステムの2台目が最近導入され、消化器外科のみならず、泌尿器科、婦人科領域でも活発に活用されています。ロボット支援下手術では、小さな創で、より精緻な手術が可能となっており、集学的治療の一環としても大変有用です。

さらには、少しでも安全に、1日でも早く、お一人お一人の日常を取り戻していただけることを念頭に、リハビリテーションや緩和医療等の支持療法も積極的に取り入れています。

わたくしたちのモットーは、“患者さん本位の臨床と研究の推進 (Patient-Centered Care and Research)”です。患者さんに少しでも満足して頂けるように、関係診療科および部署との連携を密にして、奈良県における最先端および最後の砦として、これからもチーム医療を実践してまいります。地域の先生方におかれましては、今後も信頼いただける様に努めて参りますので、何かございましたらいつでもご連絡頂ければ幸いです。

診療科紹介



高度救命救急センター

奈良県立医科大学附属病院高度救命救急センターは奈良県唯一の高度救命救急センターとして重傷外傷、広範囲熱傷や心肺停止、敗血症、急性中毒といった重症患者さんの治療にあたっています。高度救命救急センター内で治療が完結することが多いですが、大学附属病院ならではの強みとして、専門各診療科と連携して重症病態の診療にあたっています。

来年度にはCT室、血管撮影室、手術室が一体となったハイブリッドERを導入し、更に高度な救命医療体制の構築に取り組みます。重症症例は怪我であれ病気であれ、極めて全身状態が悪いため、全身状態の安定化、つまり“蘇生”をまず行わなければなりません。我々はこの蘇生処置の早期開始を目標に取り組んでおります。つまり救急隊が患者さんを当センターに搬送してから処置を始めるのではなく、病院搬送前、救急現場から診療にあたるようにしています。

奈良県立医科大学は奈良県ドクターヘリの基地病院であり、また奈良県広域消防組合と連携してドクターカーの運用を行っております。多くのフライトドクター、フライトナース、そしてドクターカー医師と看護師を擁しており、ドクターヘリは年間400～500件、ドクターカーは1000件を超えて出勤しています。

当センターには救急科専門医のみならず、外科専門医、整形外科専門医、脳神経外科専門医にくわえて、集中治療専門医、熱傷専門医、外傷専門医、中毒専門家（クリニカルトキシコロジスト）の資格を持った医師が勤務しています。

また奈良県立医科大学附属病院は奈良県の基幹災害拠点病院に認定されております。県内に複数ある災害拠点病院、DAMT指定医療機関と連携して大規模災害時には医療を統括する役割を担っています。



在宅医療支援センターのご利用について

センター長よりご挨拶

みなさま、2022年4月1日、奈良県立医科大学附属病院に在宅医療支援センターを設立いたしました。在宅医療は入院医療、外来医療と並び第3の医療として地域共生社会・地域包括ケアシステムの中で重要な役割を担いつつあります。

2018年度に奈良県医師会が実施された在宅医療に関するアンケート調査で、在宅医療に取り組まない主な理由といたしまして、下記の2つがあげられました。

- 1位「時間的制約がきつく体力、気力的に続ける自信がない(51%)」
- 2位「自分の専門以外の疾病に対応する自信がない(17%)」

そこで、当院としましては、在宅の患者さんに対する夜間や休日における対応の肩代わり(夜間・休日の支援)や専門外のことに関する相談をお受けして専門家からの回答をお返ししたいと思います。医師のみならず、看護師さんやケアマネージャーさんやヘルパーさんたちからも、あらゆる質問や相談をお受けしていきたいと思ひます。

以上、在宅医療支援センターの設置によりまして、在宅医療をやってもいいかと思っただけの医師が増えること、そして奈良県内の在宅医療の充実が図れますことを祈念しております。



奈良県立医科大学附属病院
総合診療科 教授
在宅医療支援センター
センター長 西尾 健治

在宅医療支援センターの取り組み

01 夜間・休日における在宅医療業務の代行

在宅医療を行う医院などの要請を受けて、特に時間的制約が厳しい夜間・休日などに当センター担当医師が当該医院医師に代わって診療を行います。



02 各種専門領域に及ぶ相談窓口の開設

在宅医療に関わる皆様(医師・看護師・介護職員・ケアマネージャー等)が在宅医療を行うなかで発生した疑問や質問に対して、その解決の参考としていただけるよう奈良医大附属病院内の専門部署とも密接に連携・協働してコメント等をお返しします。



03 在宅医療を担う人材の育成、教育や研究

若手の医療従事者が1および2の業務に関わることで在宅医療に関する認識・理解を深め、さらに在宅医療に関する問題点についても研究を推進していきたいと考えています。

ホームページに詳細情報を掲載しています



ご利用には利用者登録のうえ、事前のお申し込みが必要です
詳しくは在宅医療支援センターのホームページをご覧ください

奈良県立医科大学附属病院 在宅医療支援センター
<https://www.naramed-u.ac.jp/~idaizaitaku/>



第18回 地域医療連携懇話会 開催報告

2023年1月26日に第18回地域医療連携懇話会を開催いたしました。

今回は会場開催とWEB開催のハイブリッド開催とし、116名の皆様にご参加いただきました。会場、WEB共に多数の参加をいただき、地域医療連携に対する関心の高さがうかがえました。

また今回は、初診紹介・逆紹介で多大なるご協力をいただいている医療機関に対し感謝状の贈呈を行いました。

感謝状贈呈式

2021～2022年度 紹介医療機関上位3機関（病院・診療所別）
として感謝状を贈呈しました皆様



2021～2022年度 逆紹介医療機関上位3機関（病院・診療所別）
として感謝状を贈呈しました皆様



講演会

講演Ⅰでは、当院感染症センター長の笠原先生（感染制御内科教授）より、未だ猛威を振るう新型コロナウイルス感染症について、講演Ⅱでは当院緩和ケアセンター長の四宮先生より、良い看取りと緩和ケアについてお話いただきました。

開催後に行ったアンケートでは参加者の皆様から「感染対策の理解と教育、リスクコミュニケーションの重要性を再認識しました。」「緩和ケアについて段階を踏まえて、臨床の経験から分かり易くご講演頂き、非常に参考になりました。」「遠方でも参加できるのがありがたかったです。」など多くのご意見をいただきました。

今後も魅力のある懇話会を目指し、取り組んでまいります。

お忙しい中ご参加、ならびに開催にご協力いただきありがとうございました。アンケート結果の詳細は後日地域医療連携室ホームページに掲載させていただきます。

開催概要

開催日時:2023年1月26日(木)

14:00~15:30

開催場所:[会場] 奈良県立医科大学
 敵艦会館 3階 大ホール
 [WEB] Zoomウェビナー

■感謝状贈呈 紹介・逆紹介協力医療機関

■講演 座長 奈良医大附属病院
 消化器・代謝内科 教授
 地域医療連携室長 吉治 仁志

講演Ⅰ「新型コロナウイルス感染症の
 これまでとこれから」
 奈良医大附属病院
 感染制御内科教授
 感染症センター長 笠原 敬

講演Ⅱ「穏やかな最期を迎えるために」
 奈良医大附属病院
 緩和ケアセンター長 四宮 敏章

当日の講演者



奈良県立医科大学附属病院
 消化器・代謝内科 教授
 地域医療連携室長
 吉治 仁志



奈良県立医科大学附属病院
 感染症内科 教授
 感染症センター長
 笠原 敬

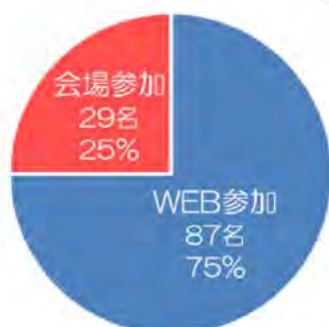


奈良県立医科大学附属病院
 緩和ケアセンター長
 四宮 敏章

参加状況

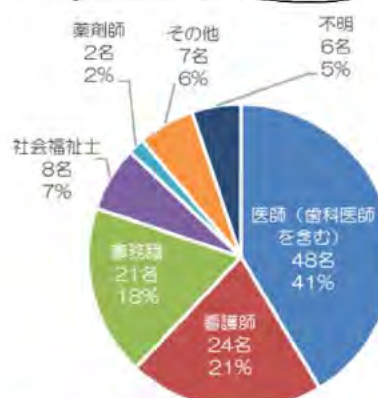
参加方法

N=116名



参加職種

N=116名



いつもたくさんのご紹介を
ありがとうございます！

初診紹介患者数

2022年度見込み
21,000名！

2020年度
17,990名

2021年度
19,846名

2022年1月末時点
実績17,912名

当院はこのような機能を担っています

県内唯一

特定機能病院

高度救命救急センター



都道府県がん診療連携拠点病院

第一種・第二種感染症
指定医療機関

…etc

- ・ 初診患者数(月平均) 約1,800名
 - ・ 救急搬送患者数(〃) 約 350名
- 再診患者さんも含めると、
毎月 約40,000名 が当院に来院しています

このような状況から、

当院では緊急時を除いて **原則予約制** としています！

待ち時間の短縮
初期手続きの簡略化
初診から専門医の診察も
…

専門性の高い内容なら



FAX予約

予約専用FAX:

0744-23-9901

受付:月~金 8:30~16:00
(祝日・12/29~1/3除く)

※FAXは24時間受信可能ですが、時間外のお申込みにつきましては、翌日(休日の場合は休日明け)の受付となりますので、ご了承ください。

その場で予約を
取得するなら



オンライン予約

「C@RNAConnect」
※事前登録が必要です

24時間、365日予約可能
予約枠の空き確認も可能

患者さんご本人に
日程調整をお願いするなら



患者さんによる
直接電話予約

専用ダイヤルあり
連携登録医紹介患者
限定

大切な紹介患者さんに安心して受診していただくため、初診予約の取得にご協力いただきますようお願いいたします。

オンライン予約の事前登録はお済みですか？

オンライン予約のメリット

- 希望日の空き状況がその場で確認できます
- 24時間365日、その場で予約可能です
- 患者情報・診療情報を入力することで診療情報提供書としてお使いいただけます

オンライン予約枠は随時拡充しています。ぜひこの機会にオンライン予約システム「C@RNA Connect」のユーザー登録をご検討ください！

(※システム利用登録には一週間程度かかります。)

[ユーザー登録詳細](#)

(奈良医大 地域医療連携室HP)



オンライン予約可能な診療科 (2023年3月現在)

診療科名		曜日	備考	診療科名		曜日	備考
循環器内科		月・木・金		小児科	初診担当	月・火・木	
腎臓内科		月～金			内分泌	火	
消化器 ・代謝内科		月～金			循環器	金	
脳神経内科		水		眼科		月～金	
消化器外科 ・小児外科	小児外科	月		耳鼻科		月・水・金	
	肝・胆・膵	火		皮膚科		月～金	
	胃・食道	木		泌尿器科		水・木・金	
	大腸	金		放射線科	血管	月・水・金	
脳神経外科	初診担当	月・火・金			腫瘍	火・木	
	小児	水		麻酔科		月・火・金	
	脊椎	木		総合 診療科		月・火・木・金	
整形外科	膝	火		リウマチ 外来	内科	月・火・木・金	
	股関節	水			外科	木	
	足	火		乳腺外科		月・火・水	
	手	水		糖尿病 ・内分泌 内科	糖尿病	月～金	血液データの添付、身長・体重・BMIをご記載ください
歯科口腔外科	初診担当	火・木・金			内分泌	月・木	
	インプラント	金		形成外科		月・火・木・金	
	矯正	火・水・木					
産婦人科	産科	火・金					
	婦人科	月					

地域医療連携室
からのお知らせ

診療情報提供書（兼）初診予約診療登録票の 項目が一部変更になりました

身長・体重・BMI値の記入欄が追加になりました

改正後（2023年3月～）

旧



最新の診療情報提供書（兼）初診
予約診療登録票は地域医療連携室
ホームページからもダウンロード
いただけます



地域の医療機関の皆様におかれましては、当室のホームページより新しい「診療情報提供書（兼）初診予約診療登録票」をダウンロードのうえ、旧予約診療登録票と差し替えてくださるようお願いいたします。



編集・発行 奈良県立医科大学附属病院 地域医療連携室
〒634-8522 奈良県橿原市四条町840
TEL (代表) 0744-22-3051/ (直通) 0744-29-8022
FAX 0744-23-9923 URL <https://www.naramed-u.ac.jp/~chiiki/>
発行 2023年3月

